

平成25年9月24日

平成25年度人材委員会活動報告（中間報告）

1. 会議開催状況

(1) 人材委員会

(第1回)

日 時：平成25年8月23日（金）15:00～17:00

場 所：東京大学工学部列品館 2階中会議室

議 題：

- ・平成25年度人材委員会の体制について
- ・平成24年度活動報告について
- ・第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー開催報告書について
- ・平成25年度の活動方針について
- ・海外派遣事業に係る実施状況と課題について

(第2回)

日 時：平成25年10月24日（木）13:00～14:00

場 所：北海道大学附属図書館第2会議室

議 題：

- ・秋季理事会への活動経過報告について
- ・平成26年度以降の海外派遣事業について
- ・第10回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて
- ・中国四国地区協会からの資格認定制度に係る要望について(仮題)

(2) 人材育成小委員会

(第1回)

日 時：平成25年8月23日（金）13:00～15:00

場 所：東京大学工学部列品館 2階中会議室

議 題：

- ・平成25年度の活動について
- ・課題と担当について

2. 活動成果

(1) 第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

テーマ：「大学教育の質的転換と学修支援環境としての大学図書館の役割」

日 時：平成25年6月21日（金）9:30～12:30

場 所：キャッスルプラザ 3階孔雀の間（名古屋市中村区名駅4-4-25）

受講者数：204名（93機関）

(2) 平成25年度海外派遣事業の実施

海外派遣者の選考結果に基づき、短期：4件4名を派遣することとした。

（選考結果については、第60回総会にて報告済み）

### 3. 今後の検討事項

- (1) 第10回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて
- (2) 平成26年度以降の海外派遣事業について
- (3) 研修事業のあり方について
- (4) 人事政策について

## 第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書

平成 25 年 8 月 23 日  
人 材 委 員 会

### 1. テーマ

「大学教育の質的転換と学修支援環境としての大学図書館の役割」

### 2. 日時

平成 25 年 6 月 21 日(金) 9:30～12:30

### 3. 場所

キャッスルプラザ 3階孔雀の間(名古屋市中村区名駅 4-4-25)

### 4. 受講者数

館長・副館長級	66機関	67名
部長級	34機関	34名
課長級	87機関	98名
その他	4機関	5名
合計	(重複を除く) 93機関	204名

※その他： 課長補佐級受講者、および文部科学省、国立情報学研究所学術基盤推進部所属者

### 5. プログラム (別紙 1「講演及びオープン・ディスカッション概要」参照)

	司会：井上 修 (人材委員会／東北大学附属図書館事務部長)
9:30～ 9:40	開会 挨拶：植木俊哉 (人材委員会委員長／東北大学附属図書館長)
9:40～10:50	基調講演 「大学教育の質的転換と学修支援環境としての大学図書館の役割」 講師：鈴木典比古 (国際教養大学長)
10:50～11:05	休憩
11:05～12:20	オープン・ディスカッション コーディネータ：新田孝彦 (北海道大学附属図書館長) コメントータ：鈴木典比古(国際教養大学長) 東島 清(人材委員会／大阪大学附属図書館長)
12:20～12:30	まとめ・閉会

6. 受講者アンケート結果（別紙 2「アンケート集計結果報告」参照）

回答者:114名(受講者204名中) 回答率:55.9%

7. 決算

予算		支出		予算との差異
協会費	250,000円	マネセミ経費支出額	757,945円	△507,945円

内訳及び前年(第8回)との比較

第8回支出		金額	第9回支出		金額
会場使用料		58,800	会場使用料		335,500
控室使用料		0	控室使用料		64,600
			サービス料		40,010
付帯設備使用料(マイク、スクリーン等)		0	付帯設備使用料(マイク、スクリーン等)		182,500
立て看板		20,000	立て看板		0
消費税		1,000	消費税		31,130
会場費計		79,800	会場費計		653,740
講師旅費		39,940	講師旅費		68,205
講師謝金		0	講師謝金		36,000
講師費計		39,940	講師費計		104,205
講師及び受講者用飲料		0	講師及び受講者用飲料		0
配付資料印刷費		0	配付資料印刷費		0
講師及び関係者会場送迎費		6,300			
その他計		6,300	その他計		0
合計		126,040	合計		757,945

8. 運営スタッフ

人材委員会	東北大学附属図書館 事務部長	井上 修
	北海道大学附属図書館 事務部長	片山 俊治
	筑波大学附属図書館 情報サービス課長	細川 聖二
	千葉大学附属図書館 利用支援企画課長	島 文子
	北海道大学附属図書館 管理課長	江川 和子
	一橋大学学術・図書部 学術情報課長	小陳 左和子
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
	九州大学附属図書館事務部長	益森 治巳
	お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報チームリーダー	森 いづみ
総会当番館 (協力)	名古屋大学附属図書館 情報管理課課長補佐	棚橋 是之
	名古屋大学附属図書館 情報管理課資料管理掛長	萩 誠一

以上

## 第 9 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 講演及びオープン・ディスカッション概要

〔平成 25 年 6 月 21 日（金）9:30～12:30 於 キャッスルプラザ 3 階「孔雀の間」（名古屋市）〕

### 1. 基調講演「大学教育の質的転換と学修支援環境としての大学図書館の役割」

鈴木典比古（国際教養大学長）

はじめに、昨今の中教審答申や大学改革実行プランにおける教育の質保証をめぐる動向について説明があった。

続いて、学士課程教育の体系化と国際的通用性、大学教育の質的転換と主体的な学びに関する中教審答申と我が国の現状、質保証のためのクラス・マネジメント、それぞれ解説があった。特に、日本の大学教育における国際的質保証や大学間単位互換のためには学士課程教育のカリキュラムについて全て科目番号による体系化を進めると共に、学生の学習不足、授業内容の希薄化、教育プログラムのガバナンス不足などの問題について質的転換が必要であるとの提言があった。

最後に、大学図書館による学修支援の役割として、国際基督教大学図書館と千葉大学附属図書館を事例とした紹介があった。

### 2. オープン・ディスカッション

コーディネータ：新田 孝彦（北海道大学附属図書館長）

コメンテーター：鈴木典比古（国際教養大学長）

東島 清（大阪大学附属図書館長）

はじめに、東島館長から大阪大学における学生の主体的な学びを育てるための取り組み事例「理数オナープログラム」やその成果として全国規模のイベントとなった「サイエンス・インカレ」について報告が行われた。

続いて、コーディネータの進行のもと、鈴木学長の基調講演、東島館長の事例報告に対する質疑応答があり、授業の標準化と多様化の共存、授業時間外の学習の必要性、アメリカ式のコース・リザーブブック制度等について活発な質問や意見交換が行われ、大学教育の質保証問題について知見を深めるとともに、大学図書館の果たすべき役割について知見を広めることができた。

（意見の概要）

- ・ 大学授業のシラバスにおいて、教育の質保証と結びつけるならば、教員はシラバスを契約どおりに達成し、学生は工程表に記載された義務を果たす、大学は契約がうまく実行できるように教員支援や学生支援を行うことは全く正しい。
- ・ シラバスどおりに授業を行うことが基本原則ではあるが、教員には意図的に教育力と学習力の関係をダイナミックに変えて行くことが求められる。授業がアクティブになれば

なるほど学生は授業に白熱してきて、シラバスどおりにいかない場合が起こるが、逆にクラスのマネジメントが順調である証拠である。

- ・ 教員は、15週の最終週でシラバスに照らし合わせて、授業の進行度や習熟度を学生に説明しなければならない。積み残しのあった重要なことについては学生にきちんと示し、学生からの自主的なレポートにはコメントを返し、授業に積み残しがある場合は補講をするなどの契約履行のための態度が求められる。
- ・ カリキュラムやシラバスの積み残しについては、4年間124単位取得の中で1科目2～3単位とすると50～60科目で終わってしまう。60科目の中でどの程度の積み残しがあるのかについては、真剣に考える必要がある。
- ・ アクティブラーニングのクラスでは学生からのコミットメントがあって、双方向授業や学生参加型授業が成り立つことから、教員は学生にもクラスを成功させるための責任の半分があることを示し、そのための協力要請を明確に述べる必要がある。
- ・ 基本的にカリキュラムとは、物理的には何科目で学部や学科のコースが構成されているかということ、質的には学部や学科の目標としてどういう学生を輩出するかということ、その裏付け（根拠）としてシラバスは大きく関わっている。
- ・ 学部や学科の目標や人材育成の方針は抽象的ではあるが、それを実現するためのシラバスなので両者には相関関係がなければならない。カリキュラムのガバナンスやコースマネジメントという観点からみると、学部長や学科長は責任を持たなければならない。
- ・ 国内の大学においては、これまで新しい履修科目を増やす、非常勤講師で補うなどの措置によってカリキュラムを膨らませてきたが、どのように学部や学科の目標や人材輩出の方針と結びつけるかという政策的な判断作業がなされてこなかった。
- ・ 学生にとって、初年時の導入教育や卒業前の就活を考えると実質2年半と修学期間は非常に短く、結果として年間40～50単位を履修する状況となり、それが学生にとって学びの希薄化の要因となっていることは、教育の質保証の観点から見て由々しき問題である。
- ・ 国際基督教大学図書館では、アメリカ式のコースリザーブ制度を取り入れており、授業開始前までに各教員は図書館に授業に必要な図書を示して、図書館に用意している。学生は2時間まで借りることができるので、予習復習を頻繁に図書館で行うという習慣ができ、教育の質保証に繋がっている。
- ・ TAにはティーチングアシスタントとティーチングアソシエートの2種類あり、それらの違いについて説明があった。前者は教員の授業準備を手伝うための修士課程や博士課程の人材であるのに対して、後者は教員助手としてグループ学習におけるグループリー

ダーとして学生の学修支援を担う役割を果たす博士後期課程の人材である。

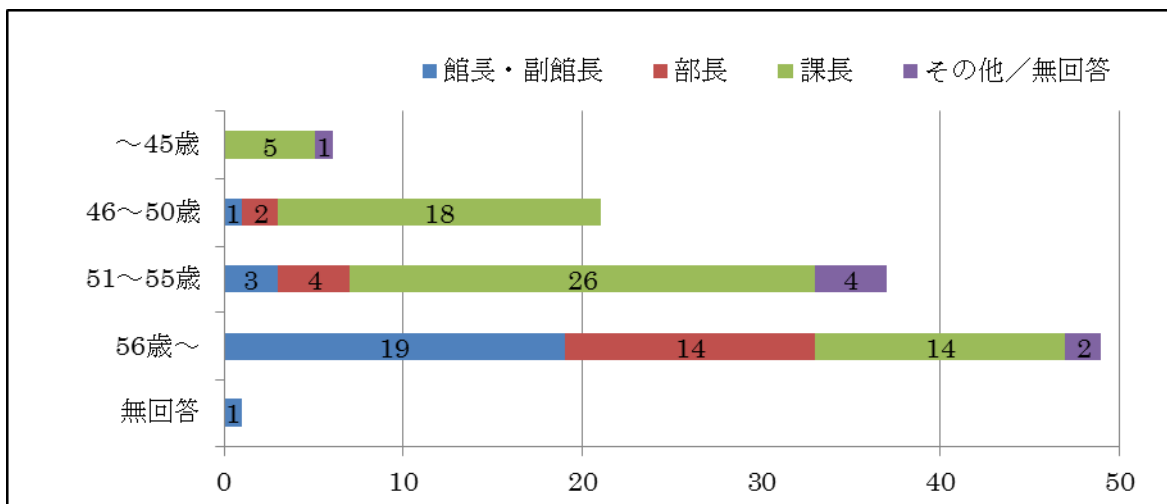
- 図書館がシラバス情報を早期入手するためには、シラバスをいつ作るのかが非常に重要である。授業計画をいつ作るのかと同義であり、全てのシラバスは前年度の1月ぐらいまでに揃えておく必要がある。
- アメリカの学生と異なり、主体的な学びに慣れていない日本の学生を相手に、主体的な学びを成功させるためには、教員による対話型のきめ細かな指導に加えて、学生のやる気を起こさせるための相当の工夫が必要である。

## 第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

[平成 25 年 6 月 21 日(金)9:30～12:30 於キャスルプラザ 3F 孔雀の間]

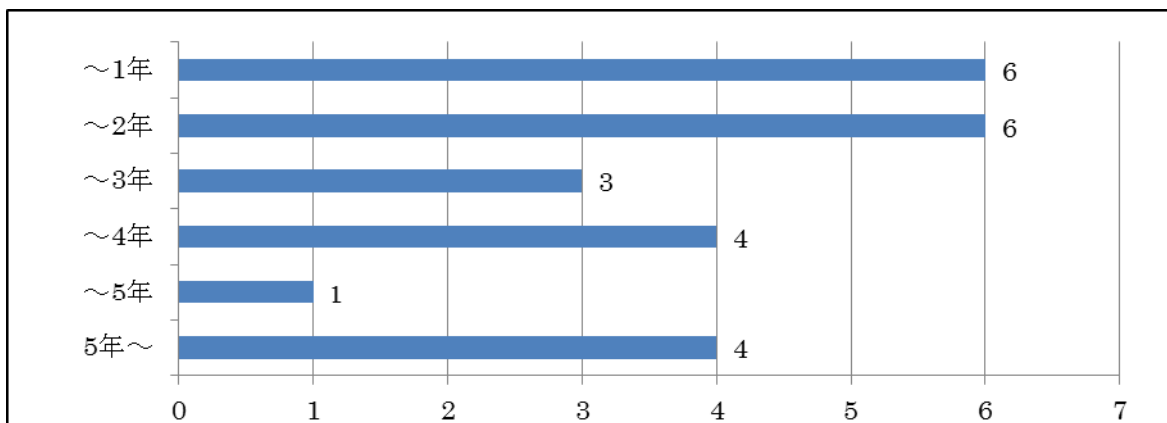
1. 回答数 114名(受講者204名中), 回答率: 55.9 %

### 2. 年齢



	～45歳	46～50歳	51～55歳	56歳～	無回答	合計
館長・副館長級相当職	0	1	3	19	1	24
部長級相当職	0	2	4	14	0	20
課長級相当職	5	18	26	14	0	63
その他/無回答	1	0	4	2	0	7
合計	6	21	37	49	1	114

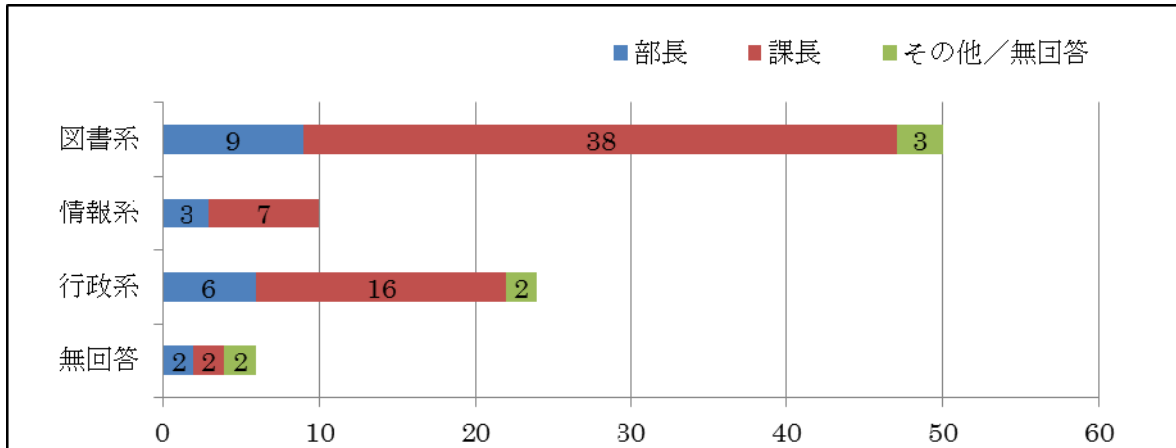
### 3. 館長・副館長級相当職の経験年数



	～1年	～2年	～3年	～4年	～5年	5年～	合計
館長・副館長級相当職	6	6	3	4	1	4	24

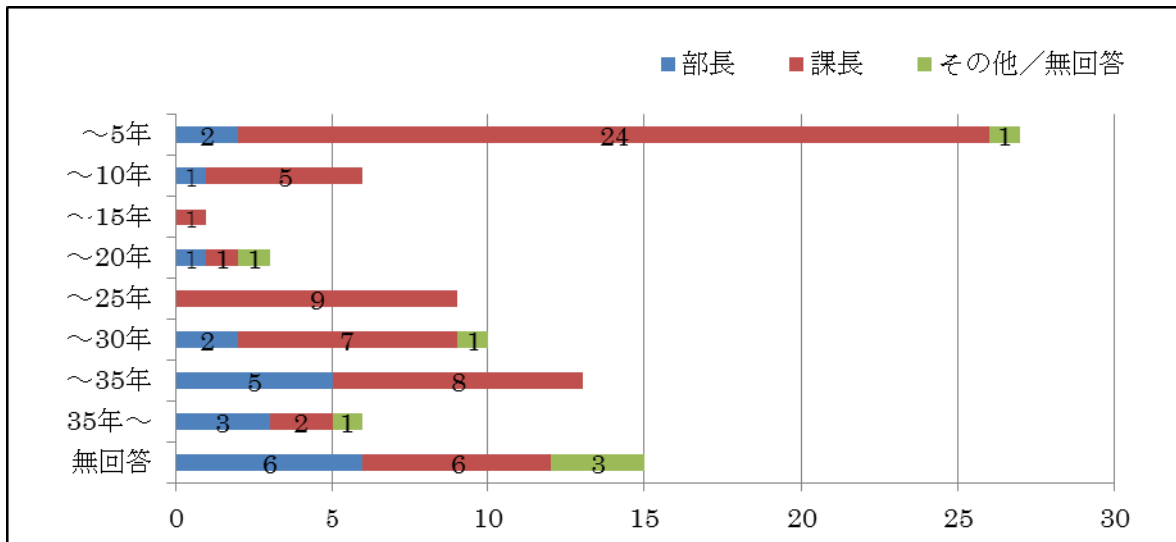


#### 4. 事務職の職系



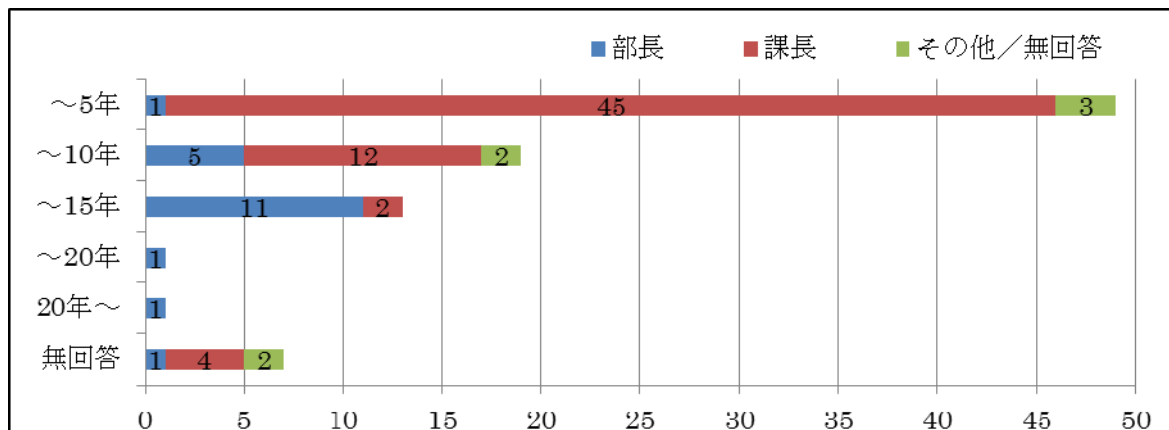
	図書系	情報系	行政系	無回答	合計
部長級相当職	9	3	6	2	20
課長級相当職	38	7	16	2	63
その他/無回答	3	0	2	2	7
合計	50	10	24	6	90

#### 5. 事務職の図書館勤務年数



	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	～30年	～35年	35年～	無回答	合計
部長級相当職	2	1	0	1	0	2	5	3	6	20
課長級相当職	24	5	1	1	9	7	8	2	6	63
その他/無回答	1	0	0	1	0	1	0	1	3	7
合計	27	6	1	3	9	10	13	6	15	90

## 6. 事務職の管理職経験年数

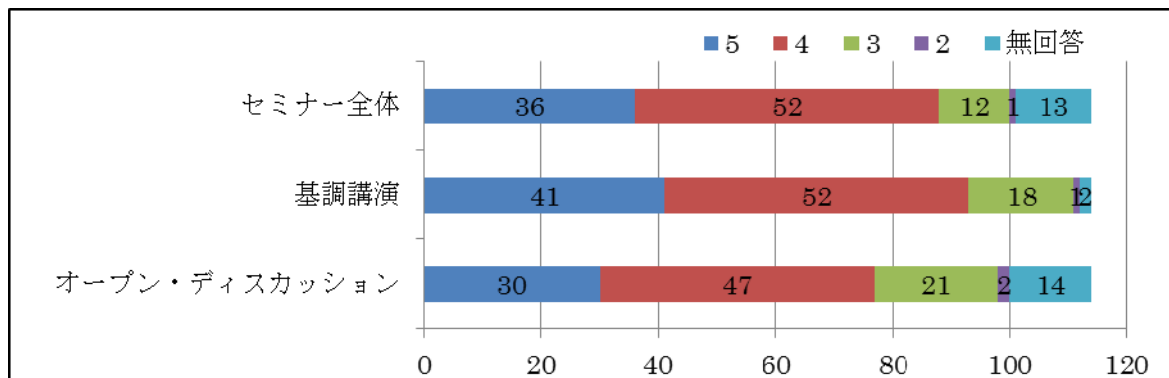


	～5年	～10年	～15年	～20年	20年～	無回答	合計
部長級相当職	1	5	11	1	1	1	20
課長級相当職	45	12	2	0	0	4	63
その他/無回答	3	2	0	0	0	2	7
合計	49	19	13	1	1	7	90

### ※【参考】

記名者数 全 34 名 (館長級:15/24, 部長級:4/20, 課長級:14/63, その他:1/7)

### I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考に なった	3:ふつう	2:参考に ならなかった	1:全く参考に ならなかった	無回答
(1)全体	36	52	12	1	0	13
(2)講演	41	52	18	1	0	2
(3)オープン・ ディスカッション	30	47	21	2	0	14

## 【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他,  
[無]:役職無回答

### (1) セミナー全体

#### 《5:たいへん参考になった》

- ・ 図書館の職員の方と館長(教員)双方の意識を知ることができる機会であったので。[館]
- ・ 大学教育の質的転換が叫ばれている中で, 大学図書館の役割を改めて考えるきっかけとなった。  
[館]
- ・ 教育方法, 内容等を踏まえて, 今後の図書館運営を考える多くの視点を得ることができました。  
[部]
- ・ 他大学の取組について, 将来の向かうべき方向について等, 大変参考になりました。[課]
- ・ かなり本音に近いお話が先生方から聞けたように思います。[課]
- ・ 現在どういう教育改革が実践・計画されているのか, 実感できた。今後図書館としてどんなことができるのか, 考えてみたい。[その他]

#### 《4:参考になった》

- ・ 大学教育の改革について, そもそもの概念から教えていただいた。これは大きな収穫であった。  
[館]
- ・ 図書館の役割について, 誰も語らなかったのが, 逆に印象に残りました。アクティブラーニングの事例も東島先生から示され, 図書館のできることを考えるヒントが示され, 特に図書館関係者にとっては有益だったのではないかと思います。[館]
- ・ 学習支援環境としての大学図書館の役割にもう一步踏み込みが欲しかった。[館]
- ・ 教育の質的転換の内容を具体的に知ることができたため[部]
- ・ 質保障への取組の点で大変参考となりました。[部]
- ・ 「大学教育の質的転換」の持つ意味を概観することができました。[課]
- ・ 大学運営にかかわる者としてはとても参考になりました。ですが, 具体的に図書館として何が求められるのか? 何ができるかという点では悩みが深まりました。図書館の役割をもう少し深く聞きたかったです。[課]
- ・ 図書館を増築し, ラーニングコモンズを大きく展開する計画があるため[課]
- ・ 理念→実践までカバーできなかった。図書館の姿が見えなかった。[無]

#### 《3:ふつう》

- ・ すでによく知っている内容(JABEEとして10年以上の経験あり)[館]
- ・ FD研修のような印象でした。[部]
- ・ 具体性に欠ける。[部]

#### 《無回答》

- ・ 久々に「マネジメント」にふさわしいプログラムで, よかった。定例行事だから開催するのではなく, マネジメントの目的に合ったものにしてほしい。[課]

## (2) 講演

### 《5:たいへん参考になった》

- ・ 学生教育の中で大学図書館の役割の重要性を理解した。(ICU 千葉大例) 学生の学修支援環境に図書館が効率的なものであることを再認識した。大学教育の質的改革に対して再認識した。  
[館]
- ・ 大学院教育にも踏み込んでもらいたかった。[館]
- ・ 鈴木学長の講演とリンクした内容でのシラバスの問題など大変参考になりました。[部]
- ・ 学修支援の事例については大変参考となった。[課]
- ・ 鈴木先生の講演で「Ⅱ 学士課程教育と大学教育の体系化と国際通用性」について、知識が不十分でしたので、わかりやすく説明いただき、参考になりました。東島先生の事例紹介とあわせて、学修支援の事例も楽しく拝聴しました。[課]

### 《4:参考になった》

- ・ 講演者の大学における状況・取組が参考になりました。[部]
- ・ 時間配分のバランスが良くなかった。[部]
- ・ 断片的な知識を体系的に説明いただくことができ、理解が深まった。[課]
- ・ 図書館の課題等について参考になった。[課]
- ・ 教員に聞かせたい内容であった。[課]

### 《3:ふつう》

- ・ 特段に新しい知見は得られなかった。[課]
- ・ 講演では質的転換と大学図書館の役割の関わりが多少理解しづらい面があった。[課]
- ・ 講演のテーマの割には、図書館の内容が少ないと感じた。(シラバスや授業の話がメインであったように思う。)[課]
- ・ 「図書館の役割」部分が不足。ほとんど大学教育についての説明であった。[課]
- ・ 講演はやや冗長。全体としては参考になった。[その他]

## (3) オープン・ディスカッション

### 《4:参考になった》

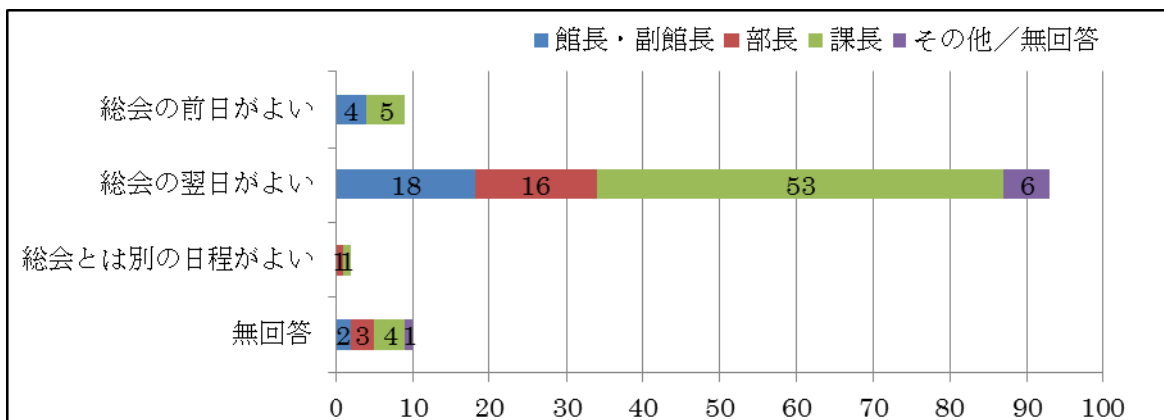
- ・ 東島先生のお話のスライドも(参考のために)頂けると有難いです。[課]
- ・ オープン・ディスカッションでは、フロアの研究者(館長)の方々からのコメントをもっとお聞きしたかったと思いました。[課]

### 《3:ふつう》

- ・ 教育改革に通じるタイミングの良いテーマであったと思う。ただ教員としては内容が十分に理解できたが、図書館職員にとっては理解しにくかったのではと思われました。それが、オープン・ディスカッションに現れていました。[館]
- ・ 阪大のパワーポイント資料を配布していただき良かった。(見えにくかった。)[課]
- ・ 図書館の役割について、もっと話をしてほしかった。質的転換が中心であった。[課]
- ・ 興味深い知見は得られたが、図書館のあり方によりコミットしていただき良かった。[課]

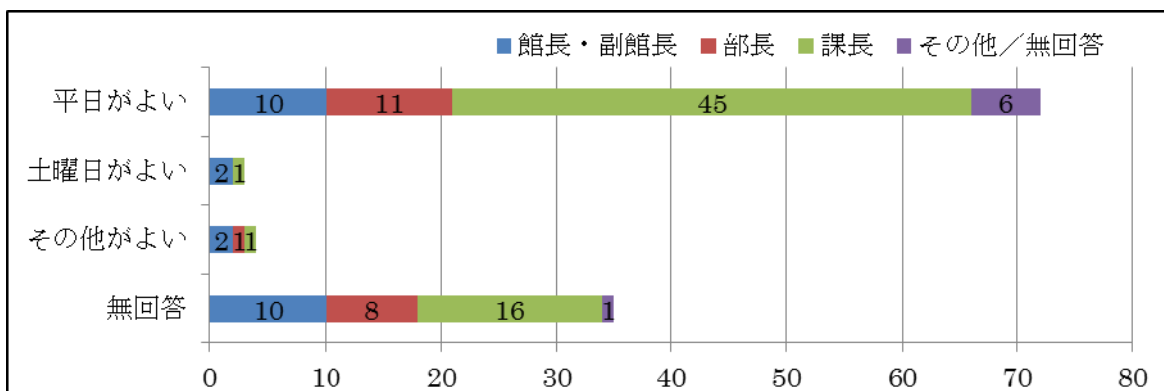
## Ⅱ セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)

### (1)開催時期



	前日	翌日	別の日程	無回答	合計
館長・副館長級相当職	4	18	0	2	24
部長級相当職	0	16	1	3	20
課長級相当職	5	53	1	4	63
その他/無回答	0	6	0	1	7
合計	9	93	2	10	114

### (2)開催する曜日



	平日	土曜日	その他	無回答	合計
館長・副館長級相当職	10	2	2	10	24
部長級相当職	11	0	1	8	20
課長級相当職	45	1	1	16	63
その他/無回答	6	0	0	1	7
合計	72	3	4	35	114

## 【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

《開催時期:総会の前日がよい》

- ・ 前日であると懇親会で質問可能である。[館]

《開催時期:総会の翌日がよい》

- ・ 半日で終わるのが2日目がよい。[館]
- ・ (前日, 翌日)いずれでも[館]
- ・ 総会と一緒に出張できるのが良い[館]
- ・ 6月中旬[課]
- ・ 現在と同じ枠組みで良いと思います。[課]
- ・ 今まで通りでよい。[課]
- ・ 今の日程で良い。[課]
- ・ 現在の時期・曜日が適当と思う。総会と別日程とした場合, 館長の参加率, 参加者数が減るのではないか。[課]
- ・ 今回の時期でかまわない。[課]
- ・ 現状で不満なし[課]

《開催時期:総会とは別の日程がよい》

- ・ 日帰りが可能になるため[部]
- ・ 総会とセットである意味がみいだせない。[課]

《開催時期:無回答》

- ・ 関心のあるテーマであれば, どの時期でも参加する。[部]
- ・ 総会のワークショップとマネジメント・セミナーは統合すべき[部]
- ・ 総会開催日の午前中に実施。[課]

《開催曜日:平日》

- ・ 土日に学校行事が多くなってきた。[課]
- ・ 例年どおり, 木金でお願いしたい。[課]
- ・ 木～金開催を希望します。[課]

《開催曜日:土曜日》

- ・ 2日間平日がつぶれると用務の調整等が大変だから。[館]

《開催曜日:その他》

- ・ 総会を土曜日, セミナーを日曜日に開催するように希望します。[館]

### Ⅲ 今後のセミナーで希望するテーマ

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他,

[無]:役職無回答

- ・ 大学における大学図書館の役割[館]
- ・ 各大学で課題となっているテーマを順次あげて頂くことを希望[館]
- ・ 教育と研究の両立～図書館とのかかわり[館]
- ・ 教員の教育キャリアアップの方法[館]
- ・ 現在行われている国立大学の教育の現場のお話と話題[館]
- ・ 1.図書館業務運営の改善, 効率化  
2.図書館職員の職能開発[部]
- ・ 図書館の経営的(洋書雑誌の契約(円安問題), 消費税の導入等)戦略の面からのテーマもあっても良いのでは！[部]
- ・ 図書館の学修環境整備における全学的な協力体制について:ラーニングコモンズ, ライティングセンターは授業との連携や他部署との協力が必要と思いますが, その事例等についてを希望します。[課]
- ・ 海外の先行事例。海外の図書館長を呼ぶ or 海外派遣に行った人からの報告(この場合は勿論, II(2)開催する曜日は, 平日がよいです。)[課]
- ・ 昨日の文科省配布資料から以下の2件の内容のテーマを希望します。  
1.学生の自主的な学習意欲を高めるためのインフラ整備は, 学者としての大学の責務  
2.今夏に出されるという「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」(審議のまとめ)に盛り込まれるであろう組織推進体制の強化のための具体的内容について[課]
- ・ 人材育成のための取り組み[課]
- ・ 経営層から見て学術情報基盤(資料費, 電子ジャーナル経費)に関する経費をどう考えるか伺ってみたい。[課]
- ・ 大学関係者ではない企業(あるいは NPO 法人関係者)による「マネジメントのあり方」(例:強みののばし方)[課]
- ・ 引き続き「教育改革」に関するテーマを希望します。[課]
- ・ 図書館運営に必要な予算の確保について, 学内・外部財源獲得の事例紹介も含めたセミナーを希望します。電子ジャーナル予算の全学予算化等[課]
- ・ 他部局の連携例とか, 学務系, 大学 IR 担当者の図書館に望むことなど[課]
- ・ コモンズの利用法について。各大学の特徴について。[課]
- ・ 新しい教育のあり方を「作っている」現場の方のお話が聞きたいです。[課]
- ・ 研究支援や研究評価等に対する大学の取組, マネジメント[課]
- ・ 電子資料の教育における活用実践例[無]
- ・ 今回のようなテーマは良いと思います。[その他]

#### IV セミナーの感想, 希望, 意見等

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職

- ・ 図書館職員と教員の立場でテーマに対する反応が異なるのは当然であり, 互いに歩み寄ることがセミナーの開催目的とも思われるが, やや土俵が異なる感があります。この辺の工夫が必要と思いました。[館]
- ・ 図書館員は実際に大学の授業を行っていないものがほとんどである。この Gap を詰めることが必要である。[館]
- ・ 準備等でお世話になり, ありがとうございます。[館]
- ・ 館長・図書館職員が自大学の教育改革などにあまりにも疎い。[館]
- ・ 教育に関する文部科学省での検討状況については, 多くの図書館長にとって, 既知のことと思いますが, 改めて実際にいろいろなことに取り組みされた鈴木先生のお話をうかがえてよかったと思います。ただ, 図書館の役割については議論がほとんどなく残念でした。[館]
- ・ 名古屋大学, 東海地区の皆様, 国立大学図書館協会の皆様, 大変にお世話になりました。[部]
- ・ 教育の質の転換により, そのための環境として図書館のコンテンツ充実の財源を執行部から措置されているかどうかへの言及が聞きたかった。[部]
- ・ セミナーの人数が多すぎる。以前の教員と事務別, もしくは大学規模別の分科会形式も試みていただきたい。[課]
- ・ ”答えのない問題”に取り組み, 解答を創り出していくには, 人材育成しかないということは理解できるが, 我々も何十年かこの答えのない問題に取り組み, 解答を創り出せたのだろうか。一方では, その手取り足取りの結末としてタフさのない学生を育てているのではないだろうか。水がある, 飲める場所まで案内することはできるが, 水を飲ませてやることまではできるのだろうか。「教わる」から「学ぶ」へ「受け身」姿勢から主体的学びへの転換という課題は全ての学生に通じる解答があるのだろうか。[課]
- ・ シラバス情報の入手時期については, 確かに大きな問題。[課]
- ・ コメンテーターのお二人の率直なご意見が伺えて楽しかったです。[課]
- ・ 会場が少し暑かったと思います。[課]
- ・ 大変有意義な総会, セミナーでした。ありがとうございます。[課]
- ・ 阪大のプログラム説明は役に立った。鈴木先生の話は, 理想論が多すぎて, あまり頭に入ってこなかった。[課]
- ・ 充実した内容でした。ありがとうございます。[課]
- ・ 有意義な研修(セミナー)をありがとうございました。[課]
- ・ ありがとうございます。[課]

以上